

県民の政治意識  
第44回モニター調査

報告書

(2017年2月9日～2月20日調査)

I	調査の設計	1
II	調査の概要	4



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

# I 調査の設計

## ◆ 調査の目的

2012年12月の第2次安倍晋三政権誕生から4年余、未来を創るために3本の矢を放ち、壁に挑戦を続けてきたというアベノミクスは、私たちの生活に好循環をもたらしているのだろうか。

安倍首相は、今国会の施政方針演説で「世界の真ん中」「力強く成長」「安全・安心」「1億総活躍」「子どもたちに夢を」という5つの「国創り」をキーワードに、日本の未来へ新しいスタートを切る時と強調した。昨夏の参院選の結果で、憲法改正に前向きな勢力が衆院・参院とも3分の2を超えた国会の下、この安倍政治は未来を切り開くのか。

急遽重要課題に浮上した働き方改革、共謀罪（テロ等準備罪）法案、天皇陛下の退位問題をはじめ、今国会焦点の課題について県民モニターを対象に意識を探る。

## ◆ 調査の設計

▽調査方法 当協会の登録モニターに事前に調査票を郵送し、回答は郵送、ファクス、電話聞き取り、インターネットを併用して回収。

### 【モニター～継続的な調査対象者】

1995年6月の参院選直前、県下の満20歳以上の1000人を対象に政治意識調査を実施した。その際、追跡調査に協力できるという人々を対象に、選挙直後の同年7月「参院選投票行動調査」を行い、678人から回答を得た。これを「第1回モニター調査」と位置付け、性別・年代・選挙区別などの比率が“県下の有権者の縮図”となるように対象者を選定して、1996年2月に第2回調査を行い、それ以降はほぼ半年間隔で年2回ずつ定期的に続けている。この間、2016年から18歳と19歳も加えるなどの補正を重ね、現在のモニター登録者数は576人。

▽調査時期	2017年2月9日調査票発送～2月20日回収締め切り
▽有効回収数（率）	539人（回収率93.6%＝男性260人 女性279人）
▽回収内訳	郵送 281（52.1%）
	ファクス 132（24.5%）
	インターネット 112（20.8%）
	電話聞き取り 14（2.6%）

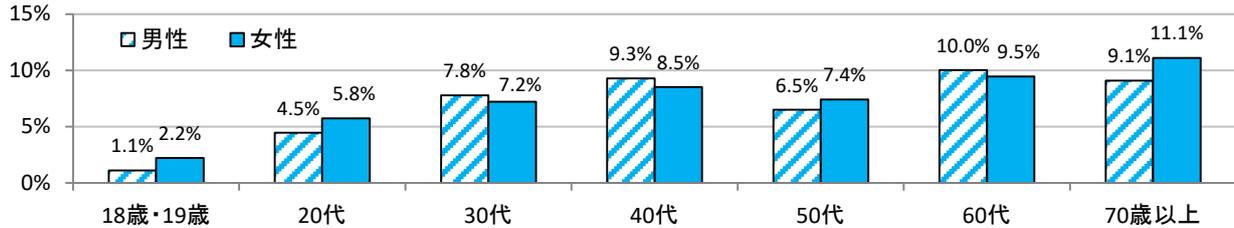
<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

本文中の数字は原則小数点以下第1位を四捨五入して表記した。合計の計算など必要な場合は小数点第1位まで記載した。

## 回収サンプルの内訳

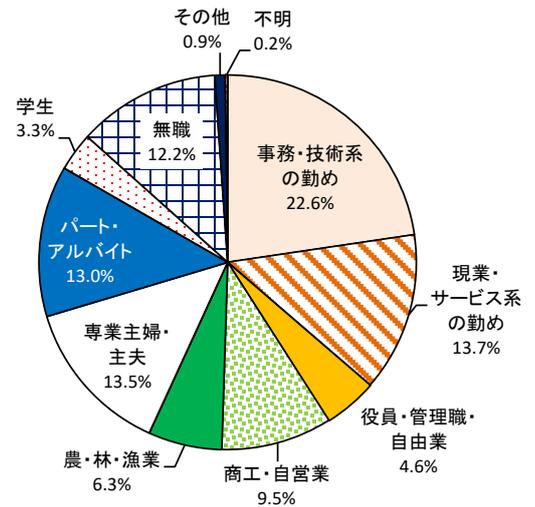
### 【性別と年代】

	合計	18歳・19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	539	18	55	81	96	75	105	109
	100.0%	3.3%	10.2%	15.0%	17.8%	13.9%	19.5%	20.2%
男性	260	6	24	42	50	35	54	49
	48.2%	1.1%	4.5%	7.8%	9.3%	6.5%	10.0%	9.1%
女性	279	12	31	39	46	40	51	60
	51.8%	2.2%	5.8%	7.2%	8.5%	7.4%	9.5%	11.1%



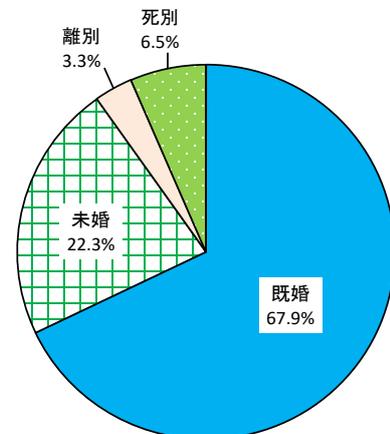
### 【職業】

事務・技術系の勤め	122	22.6%
現業・サービス系の勤め	74	13.7%
役員・管理職・自由業	25	4.6%
商工・自営業	51	9.5%
農・林・漁業	34	6.3%
専業主婦・主夫	73	13.5%
パート・アルバイト	70	13.0%
学生	18	3.3%
無職	66	12.2%
その他	5	0.9%
不明	1	0.2%



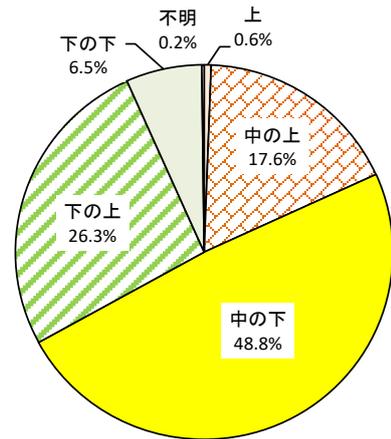
### 【結婚】

既婚	366	67.9%
未婚	120	22.3%
離別	18	3.3%
死別	35	6.5%



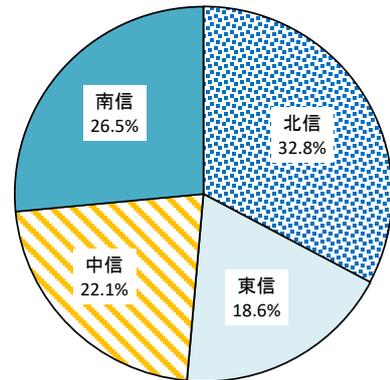
**【暮らしぶり】**

上	3	0.6%
中の上	95	17.6%
中の下	263	48.8%
下の上	142	26.3%
下の下	35	6.5%
不明	1	0.2%



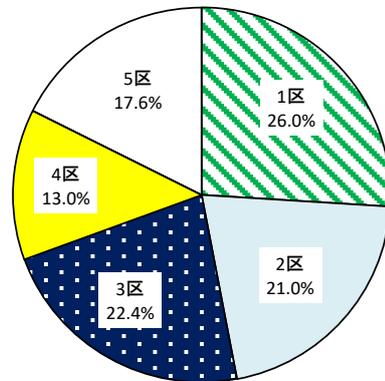
**【地域】**

北信	177	32.8%
東信	100	18.6%
中信	119	22.1%
南信	143	26.5%



**【選挙区】**

1区	140	26.0%
2区	113	21.0%
3区	121	22.4%
4区	70	13.0%
5区	95	17.6%

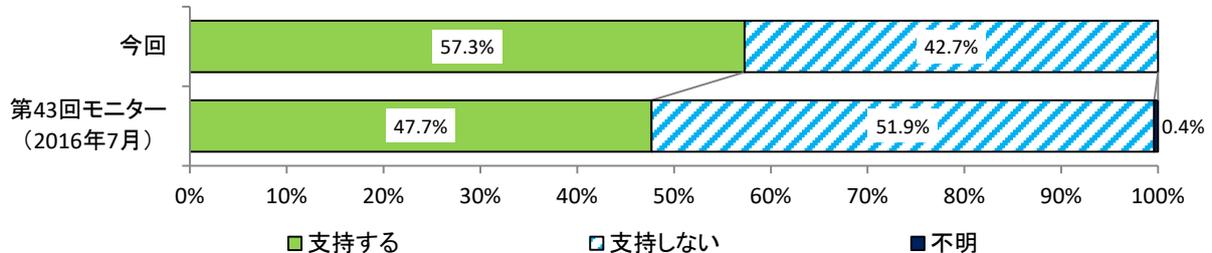


## II 調査の概要

### 安倍内閣の評価

(問1～3)

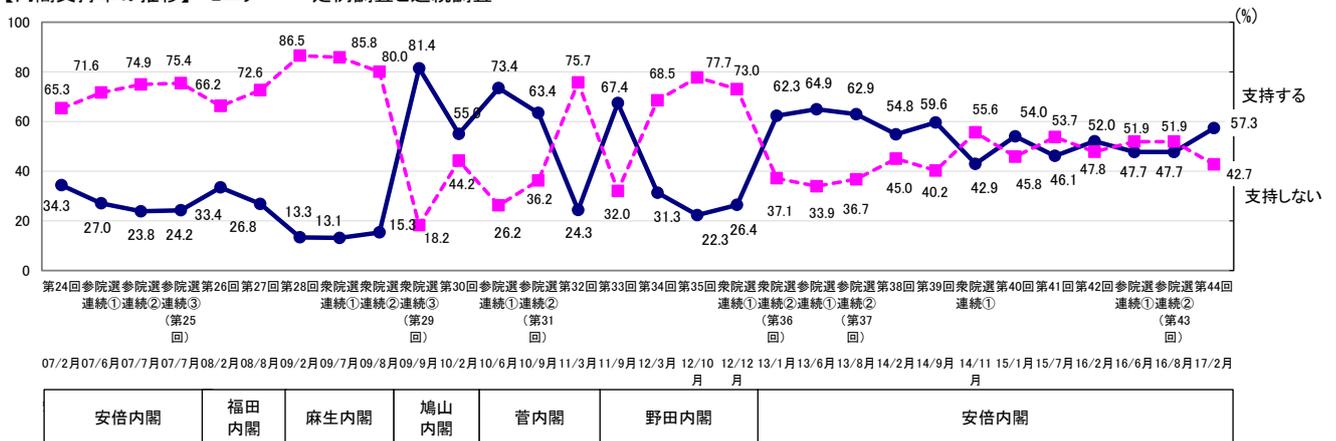
#### ◆支持率 57%、昨年夏より9ポイント増



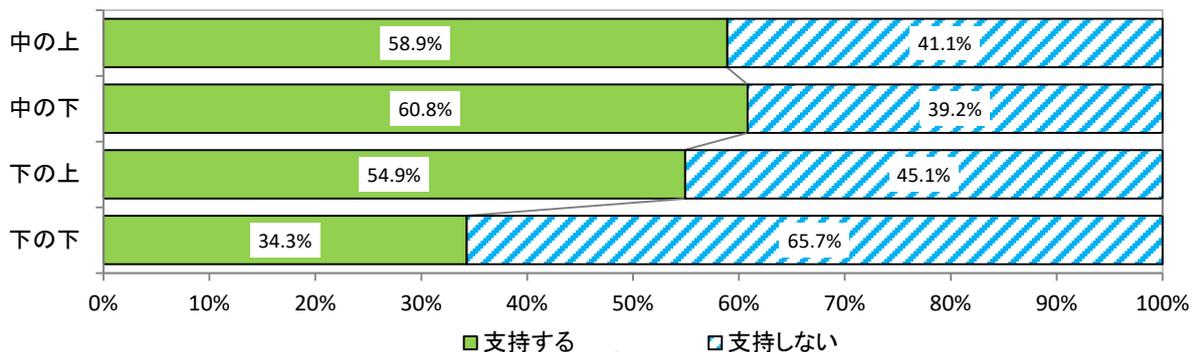
安倍内閣を「支持する」が57%と、昨年夏の参院選後の調査より9ポイント余増え、その分「支持しない」が43%に減少した。参院選前後は不支持が支持をやや上回っていた県民だが、今回は全国の調査と同様に支持率が高い。調査期間中に安倍首相とトランプ米大統領の首脳会談があったので、その評価が含まれているのかもしれない。全年代とも支持が上回り、特に30代までの若年層が6割超と高い。選挙区別では2区と4区が6割を超える。

その中で自分の暮らしぶりを「下の下」と思っている人は不支持が66%に上り、他の階層とは違う評価だ。

【内閣支持率の推移】モニター ～ 定例調査と連続調査



#### ◆暮らしぶりと支持率



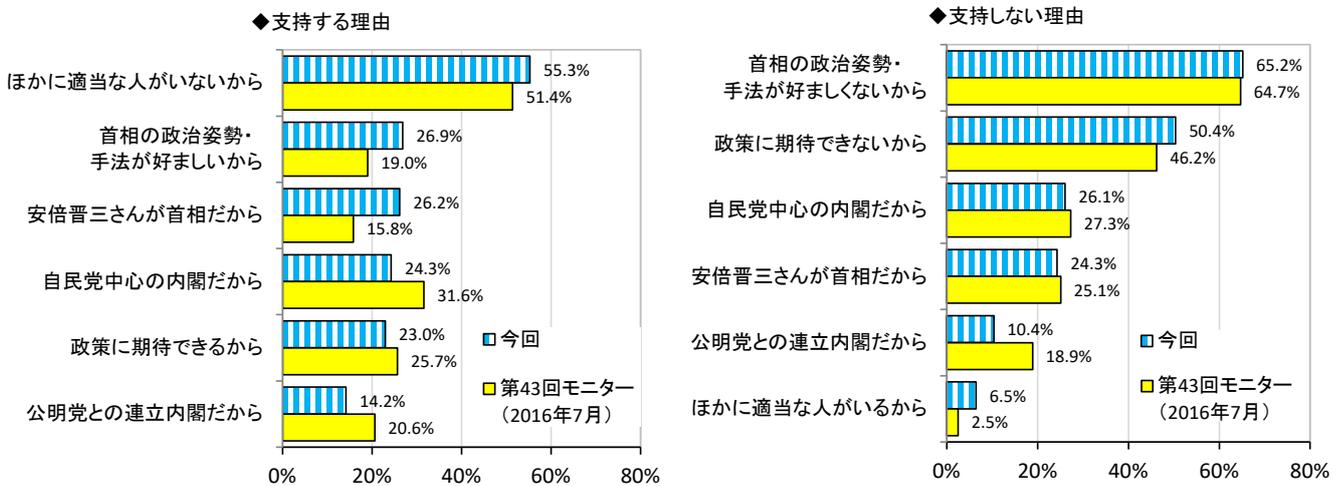
※「上」は3人のみなので、グラフは略

◆支持の理由 「ほかに適当な人がいないから」55%

安倍内閣を「支持する」と答えた309人に聞いたその理由（2つ以内）は、「ほかに適当な人がいないから」55%、「首相の政治姿勢・手法が好ましいから」27%、「安倍晋三さんが首相だから」26%が上位3項目。今回「首相の政治姿勢・手法が好ましいから」と「安倍晋三さんが首相だから」が前回に比べ約8～10ポイント伸びている。「政策に期待できるから」は23%で減少傾向が続いている。

◆支持しない理由 「首相の政治姿勢・手法が好ましくないから」65%

安倍内閣を「支持しない」と答えた230人に聞いたその理由（2つ以内）は、「首相の政治姿勢・手法が好ましくないから」が前回と同じ65%、とりわけ60代以上の高齢層は8割超が指摘している。続いて「政策に期待できないから」が微増の50%、30代以下は6割超で1番目に挙げ、年代により違いが見られる。



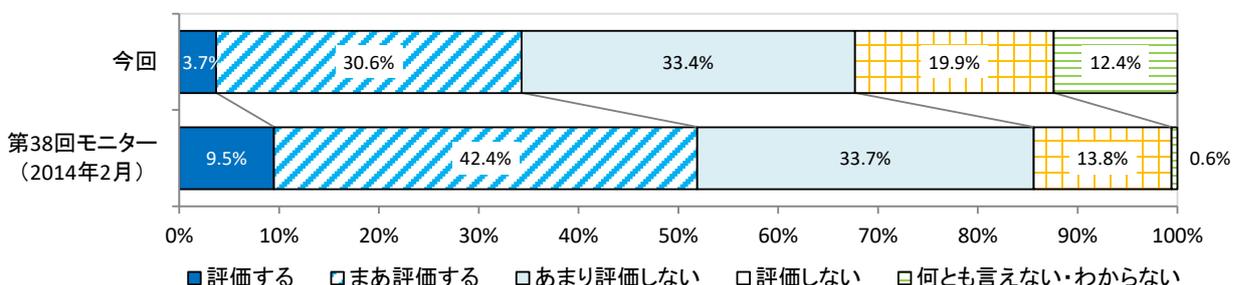
**アベノミクス** (問4～6)

◆「評価しない」が過半数

4年経った安倍首相の経済政策「アベノミクス」は「評価する」3.7%と「まあ評価する」30.6%を合わせ34.3%、「あまり評価しない」33.4%と「評価しない」19.9%を合わせ53.3%で、否定的な評価が半数を超えている。14年2月調査では「評価する」が51.9%、「評価しない」が47.5%だった。この3年間で評価は17ポイント余も低下した。

「評価しない」は、全ての年代・職業で「評価する」を上回る。とりわけ50代(66.7%)、40代(59.4%)の働き盛りの不満が強い。

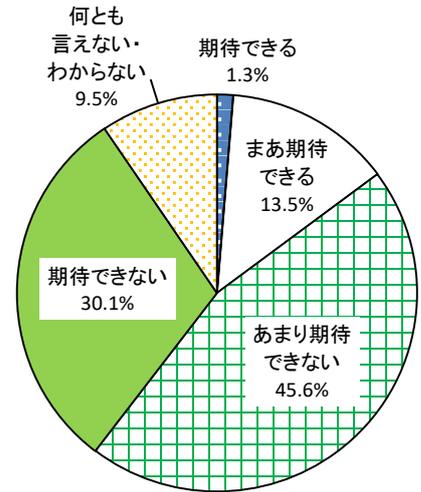
安倍内閣支持者は55.4%が評価している。



## ◆新3本の矢への期待感は15%

安倍政権が15年9月に打ち出したアベノミクス新3本の矢(目標 I 国内総生産=GDP600兆円 II 希望出生率1.8 III 介護離職ゼロ)の2025年頃までの実現性を尋ねた。

「期待できる」は全体で15%、「期待できない」が76%に上り、「夢を紡ぐ子育て支援」などの政策が1年以上たっても、目に見える成果を上げていないように思われる。全ての属性で期待感が低く、安倍内閣支持者と自民党支持者も「期待できない」が6割前後だ。



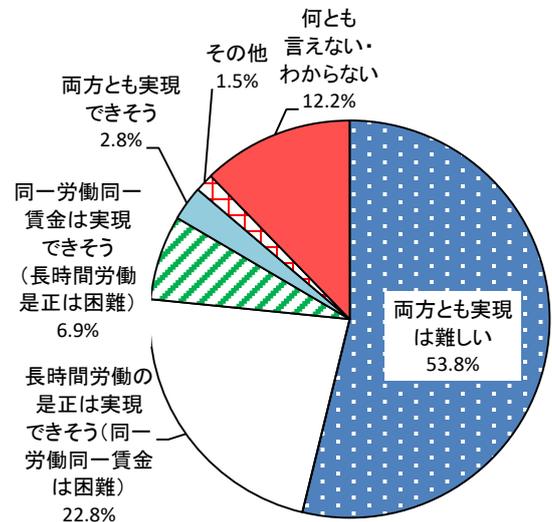
## ◆働き方改革、実現を困難視

新3本の矢を実現するために、安倍政権が提唱している働き方改革の中で重要課題となっている同一労働同一賃金と長時間労働の是正について、自分の身に寄せてどう思うか聞いた。

「両方とも実現は難しい」が過半数の54%で年代、職業を通して共通認識となっている。「長時間労働の是正は実現できそう(同一労働同一賃金は困難)」は23%で一定の可能性を見ている。電通の女性社員が過労自殺した事件から、是正が求められていることを反映している。

しかし「同一労働同一賃金は実現できそう(長時間労働是正は困難)」が7%、「両方とも実現できそう」は3%と、全体としては実現には懐疑的だ。

安倍政権は3月に働き方の行動計画をとりまとめ、スピード感を持って国会に関連法案を提出するとしている。



## TPPの頓挫

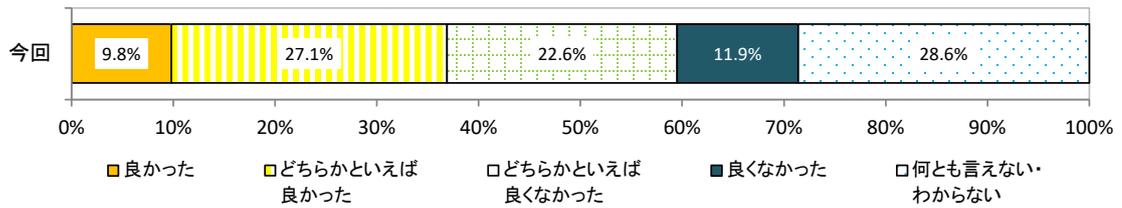
(問7)

## ◆「良かった」「良くなかった」が拮抗

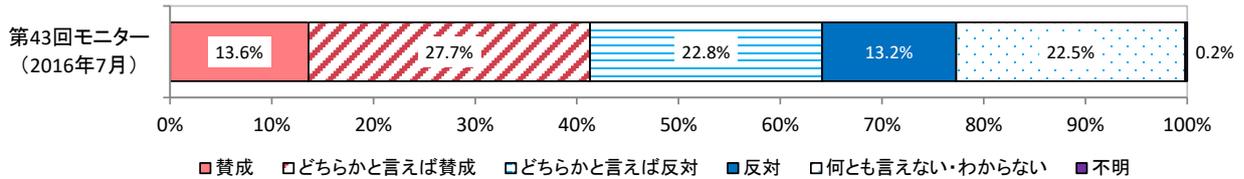
安倍政権が成長戦略の柱としたTPP(環太平洋連携協定)が、トランプ米新大統領の離脱決定により事実上頓挫し実現しなかったことを「良かった」が全体で37%、「良くなかった」が35%で拮抗、「何とも言えない・わからない」が29%だった。

男性は「良くなかった」、女性は「良かった」がやや優位。年代や職業ではバラつきがあ

る。TPPの影響が大きいと言われた農・林・漁業は「良かった」(44%)が「良くなかった」(26%)を18ポイント上回った。



【参考】TPPの国会承認について



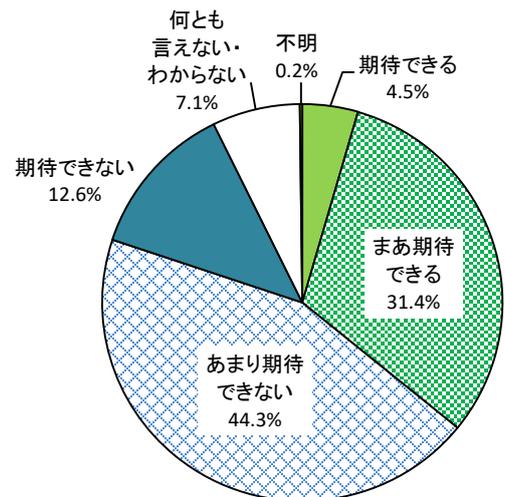
(注) 協会が民主党政権時代の2012年1~2月に実施した「TPP」調査(20歳以上の県民800人対象、有効回収422人)では、TPP交渉参加に「反対」33%、「賛成」28%、「何とも言えない・わからない」40%だった。当時全国対象の調査では、長野県民とは異なり「賛成」が上回っていた。また昨年7月の第43回モニター調査ではTPPの国会承認に「賛成」41%、「反対」36%、「何とも言えない・わからない」23%と賛否は拮抗していた。国会で承認したにもかかわらず、米政権の交代で頓挫となった結末を聞いた結果は、交渉参加以前から反対が多かった県民の特徴が表れている。

**政府の地方創生策** (問8)

◆期待感 36%と少数

安倍首相が施政方針演説で、地方創生に創意工夫で切り開く意欲的なチャレンジに交付金と分権改革により応援と強調した国の政策に「期待できる」4.5%、「まあ期待できる」31.4%と、期待感3人に1人にとどまる。年代別で一番期待感が高いのは60代の43%、職業ではパート・アルバイトの49%で半数を超えた層はない。

「期待できない」が全体で57%、選挙区別でも4区を除いて6割近い。現段階では、国の地方創生策を県民は効果的と受け止めていない。



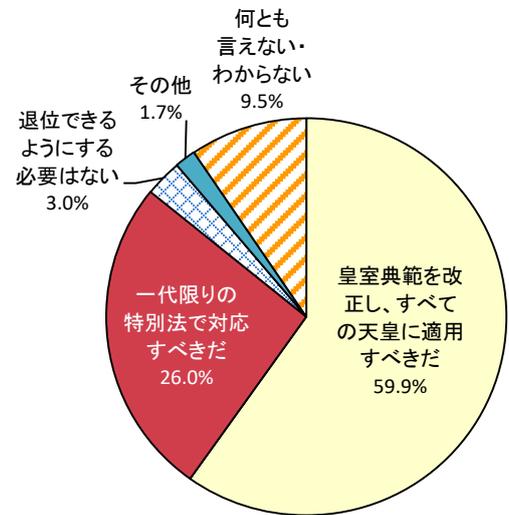
## 天皇陛下の退位

(問9~10)

### ◆「皇室典範改正し、すべての天皇に適用を」6割

天皇陛下の退位について、政府が特別法を制定して今の陛下一代に限り退位できるようにする方針を肯定は26%、「皇室典範を改正し、すべての天皇に適用すべきだ」が60%と多数だ。これは各層とも共通認識で、安倍内閣支持者、自民党・公明党支持者も「皇室典範改正」が大勢となっている。

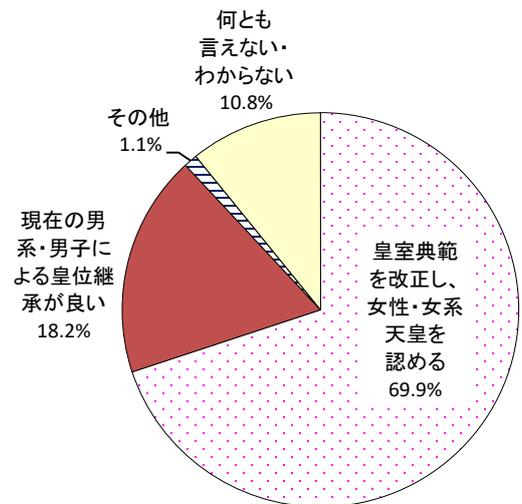
共同通信や時事通信の最近の世論調査でも「皇室典範改正で全ての天皇に適用」「将来の天皇全てが退位できるような恒久的な制度にする」が6割前後を占める。特別法による今の陛下だけの退位の支持は3割前後にとどまっており、政府の方針と国民の意識の隔たりが明らかになっている。



### ◆女性・女系天皇容認が7割

天皇陛下の退位に関連して女性・女系天皇についても聞いたところ「皇室典範を改正し、女性・女系天皇を認める」が圧倒的に多数の70%、「現在の男系・男子による皇位継承が良い」は18%にとどまる。

女性・女系天皇容認は男性71%、女性69%と僅差ながら男性の支持が高い。また各層とも容認が6割を超えている。

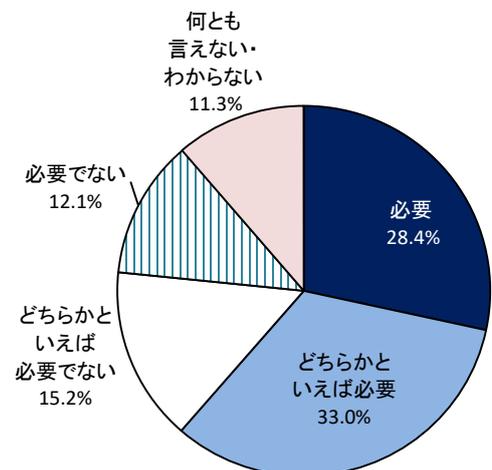


## 今国会での憲法論議

(問11)

### ◆「必要」が6割超

5月に施行70年を迎える日本国憲法について、安倍首相は今国会中に憲法審査会で改正案提示のための論議を深めることを提起している。その是非を尋ねたところ「必要」28%と「どちらかといえば必要」33%を合わせ6割超。「必要」



は全体で、各層とも5割を超えている。

「必要でない」は全体で27%、70歳以上がやや高めの38%。民進党・共産党・社民党支持者の過半数が「必要でない」答えている。

(注) 今回は首相が強調した憲法論議に絞り、改正の中身は聞いていない。憲法9条の改正について、協会の最近の調査では「反対」がほぼ6割となっている。

## 「共謀罪」法案 (問12)

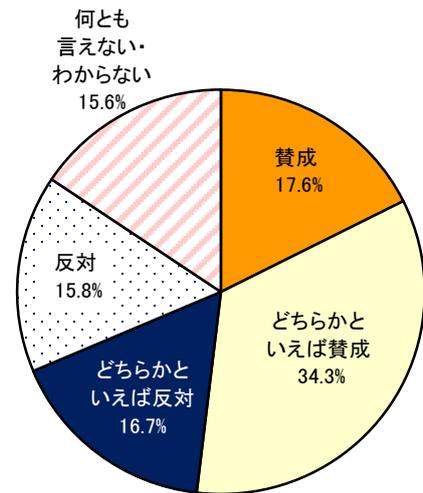
### ◆法改正に「賛成」52%、「反対」33%

今国会の焦点となっている、犯行を計画段階で処罰する「共謀罪」を構成する条件を厳格化した「テロ等準備罪」を新設する法改正への賛否を聞いた。法改正に「賛成」18%、「どちらかといえば賛成」34%、「どちらかといえば反対」17%、「反対」15.8%と全体で賛成が19ポイント上回る。

年代別に見ると50代までは「賛成」が50%を超え、「反対」をほぼ20ポイント以上上回っている。60代と70歳以上は「賛成」が4割台で拮抗状態に近い。

学生がサンプル数は少ないものの、「反対」が50%で高いのが目立つ。

なお政府は今まで一般人は対象にならないとしてきたが、法務省は2月16日に「犯罪を行う団体に一変した場合は対象」との見解を示している。本調査の回答は、一般人も対象の余地があるというこの見解以前に寄せられたものが大半である。



## 公務員の不正な天下り (問13)

### ◆根絶が「実現できる」は1割のみ

政府は、文部科学省の組織的な天下りあっせん問題を機に、全省庁を対象にした調査チームを設置、安倍首相は国会答弁で国家公務員の不正な天下り根絶を約束した。しかしこの調査により不正な天下り根絶が「実現できる」と思っているのは10%のみ、「実現は難しい」が76%に上る。

「実現できる」と思っているのは自民党(18%)、公明党(21%)の与党支持者でも少数だ。

